



No.26

発行日：平成25年2月25日

発行者：下関病院 広報委員会

<http://www.mizunoki.jp>

下関病院 〒759-6613 山口県下関市富任町6丁目18番18号

TEL : 083-258-0338 FAX : 083-259-8876



日本医療機能評価機構
下関病院は
日本医療機能評価機構
認定病院です。

いよいよ

就労支援事業

が始まります！



下関病院・地域診療クリニックでは精神障害の方の地域移行、地域定着のためにいろいろなサービスを展開しています。そして障害者が地域に定着し自立するために“しごと”“就労”は非常に重要です。このプロセスに、どうしても必要なのが就労支援です。デイケアに就労支援プログラムはありますが、就労支援事業所（作業所）はありませんでした。今まで他の就労支援事業所をご紹介しお願いしていましたが、患者さんから「下関病院に作業所があればいいのに」という声も少なからず聞いていました。

そして、その期待に応えるべく、この春に就労支援事業を始めます。クリニックの一角に建物を用意しました。まずは就労継続支援B型事業を1日20名の定員で開始します。就労継続支援B型は、”就労経験がある者であって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難となった者”が主な対象です。就労の訓練内容は、環境整備、農園、それと豆腐製造・販売、この3つの柱で考えています。

環境整備では、下関病院や地域診療クリニック内を“さわやか・安心”に過ごせるようにきれいにします。

農園は、今まで入院患者さんの作業療法で実施していた農園を引き継ぎ、無農薬の野菜を中心に生育し販売します。

豆腐製造・販売は、宮城県仙台市の森徳とうふ店さんから技術指導を受け、”がんばれ東北”の意味も込め、宮城県産の大豆を使った豆腐を製造し、地域に販売します。

これらの訓練を通して、就労に必要なコミュニケーション能力、体力、マナー、そして責任感を鍛練します。働くことの喜びや厳しさを経験し、一定のレベルに達した人には、是非一般就労にチャレンジして頂きたいと思います。将来的には、一般企業への就労をより強く推し進める就労移行支援事業も実施できるように考えています。



われわれスタッフ一同は、精神障害の方が病気・障害とうまく付き合いながら、地域に定着し自立するためのサービスに“就労支援”を加え、より一層、社会復帰に向けたお手伝いを頑張ります。利用希望の方は是非、外来やデイケアスタッフにご相談下さい。

(作業療法士 伊藤 明夫)

老年期病棟の急性期治療と運営について

老年期病棟師長 辻原 明美／精神保健福祉士 植木 浩司



現在日本では、約200万人を超える方が認知症疾患を発症しており、患者を支える家族は、数百万人になるといわれております。その実態は老老介護、独居生活、未治療で経過等さまざまな問題をかかえており、医療・福祉共にサポート体制が間に合ってないことがあげられています。

山口県では、平成25年度から認知症施策推進5カ年計画「オレンジプラン」が進められていくことになりました。『認知症を患った患者様が、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会作りをめざす』ことを目標にあげています。

当病棟に入院してこられる方の多くは、認知症周辺症状が増強し、自宅や施設での生活が困難となつた方です。医師をはじめとする多職種が情報を共有し、確定診断・薬剤調整・環境調整による周辺症状の改善を行っています。病棟では、その人らしく生活できる環境作り、個々の尊厳を重視し個別性のある関わりにて症状の安定をはかり、早期治療・退院促進をおこなっています。患者様が安心して治療に望めるよう日々努力しております。

患者様が地域での生活に戻れるように早期に介護保険の認定を受け、使えるサービスの調整をケアマネージャー・家族の方と協力して行なっていきたいと思います。また、家庭生活が困難の方は介護度、ADL、経済状況などの要因を踏まえて施設見学や申請をおこなっています。まだ手探りの状態ですが、職員一丸となって患者様の援助ができるよう心がけていきたいのでよろしくお願いします。



社会福祉法人水の木会よりお知らせ

公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団 の助成を受け福祉車両を購入

社会福祉法人水の木会では、特別養護老人ホーム富任荘の開設に伴い、受診や屋外活動、短期入所の送迎などで車椅子対応の福祉車両を必要としていました。

大型車（キャラバン）は豊松苑で所有しているため小型車（キューブ）の購入を検討し、標記財団より総事業費の57%にあたる140万円の助成金交付の決定を受け、山口日産よりキューブを購入いたしました。

小回りのきく福祉車両として、早速日々活躍しています。



社会福祉法人水の木会 理事長 水木 誠子



(公財)中央競馬馬主社会福祉財団助成
特別養護老人ホーム 富任荘

各種講演会のご報告

「摂食障害と抑うつ」

講師 健康保険直方中央病院 渡辺 克己 先生

平成25年2月2日（土）、地域診療クリニック3Fホールで、健康保険直方中央病院の渡辺克己先生に『摂食障害と抑うつ』というテーマで講演をしていただきました。



認知は複数の要因に複雑に絡みついているため敢えてターゲットとはせず、問題行動の変容を目標とした行動療法で効果を得られた症例を、講演では紹介していただきました。この、適切な食事量を摂る行為を強化する治療方法は、現在の九州大学病院の摂食障害治療の標準となっているそうです。



今回の研修では、治療に最も効果的な方法を選択することの大切さを学ぶことができました。今後の臨床でも生かしていきたいと考えております。このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。（臨床心理士 米田 孝）

「心身喪失者等医療観察制度」

講師 山口保護観察所 小林 靖 先生

平成25年2月6日（水）、下関病院において、心神喪失者等医療観察制度（以下、医療観察法）についての研修会が行われました。今回の研修会は、山口保護観察所の社会復帰調整官である小林靖さんに講師をしていただきました。



医療観察法は、重大な犯罪を犯した精神障害者に関する処遇制度ですが、今回の研修では具体的な事例を挙げ、この制度による治療プログラムの内容について、詳細に説明していただきました。また、山口県内における指定通院・入院医療機関の設置状況を踏まえ、実際の処遇実施計画の流れや関係機関の役割についても説明され、医療観察法の現状をいろいろと把握することができました。



（精神保健福祉士 津村 繁晴）

「日本で医業をするための知識～保険診療の視点～」

講師 下関市保健部長 鈴木 章記 先生

平成25年2月13日（水）、職員研修の一環として、鈴木下関市保健部長からご講演をいただきました。

鈴木部長は、厚生労働省において全国の医療機関を指導・監督（俗に「医療Gメン」）された経験から、私たち医療に携わる職員が持つておくべき知識についてお話をくださいました。



医業で生業を立てている病院、又そこで働く従業者として何より大事なことは何なのか、どのような点に注意を払うべきなのか等について、保険診療の視点からわかりやすくご説明をいただきました。



医師や看護師、又は事務方だけでなく、全てのスタッフが制度を理解し、互いに助け合って正しい保険請求を行うことが、結果として患者さんや地域社会へ貢献することとなっていることを、参加者が実感できるような講演となりました。

（事務次長 下田 義人）

行事報告

平成24年12月21日、毎年恒例であるクリスマス会を4Fホールにて開催いたしました。

今回は各病棟の患者様による合唱を発表するという形式で行なわれました。どの病棟の発表も工夫を凝らしており、患者様もこの日までに練習を重ね、その成果が發揮されていたと思います。また、今回は急遽マジシャンをお招きし、華麗な技に驚きの声が上がりました。そして、プログラムの最後は恒例のくじ引き大会です。プレゼントを当てた患者様のうれしそうな表情が印象的でした。



平成24年12月28日、毎年恒例の餅つき大会を開催いたしました。

あいにく雨風が強く、寒い中の餅つきとなりましたが、蒸し器から上がる湯気で身体を温めながら…みんなで寒さが吹き飛ぶくらいの元気な「ヨイショ～！」という大きな掛け声のもと、杵で力強く餅をつきました。石臼でのつきたてのお餅の味は格別であり、新たな年を迎えることのできる餅つき大会となりました。皆さんお疲れ様でした。

連載 スタッフでつなげる、趣味のはなし。 つなげよう！スタッフのね 第9回 国本精神保健福祉士

趣味はスポーツと風呂です！

普段たまつたストレスはスポーツで解消しています。週1回はバスケに行って、たまにテニスやフットサルなんかも…。上手い下手は関係無しで、とにかく思いっきり体を動かして嫌な事を忘れます。

そして汗をかいた後は銭湯でマッタリ…まさに至福の時です、温泉ならなお良いですね。あとウィンタースポーツではスノーボードにはまっているので、もしこれから行く予定がある方がいればぜひ声を掛けてください！！

NEXT → 医事課 村田副リーダー
おたのしみに！

編集後記

地域診療クリニックや富任荘など、拠点や事業所が増え、当紙面も徐々にバリエーションに富んだ内容になってまいりました。長い冬が明け春を迎えたら、また新しい話題をお届けすることができると思います。次号も楽しみにお待ち下さい。

(広報委員 山藤)